

○ 7月31日(木)

教育機関視察(京都府立図書館)



○ 畑 委員長

平安神宮の大鳥居を抜けたところに京都府立図書館があります。旧館の重厚な建物の面影を残したまま近代的な建築に整えられています。灼熱の岡崎公園に対して施設内は空調が心地良く、書物に向き合うには理想的な空間でした。

当日も、多様なジャンルの書籍を手にする利用者がたくさん来館しておられました。約120万冊にも及ぶ書籍資料の管理をする収蔵施設の見学も興味深いものでしたが、私にとって「市町村図書館支援作業室」の見学は大変な驚きでした。府内に点在する公設図書館や高校図書館などとネットワークを整備して、さまざまな要望に細かく対応し、およそ一週間のうちには目的の図書を希望者の手元に届けるという仕事には、ハブ機能に責任を持つこの図書館の気概を感じました。

館内の静かな読書空間とは対照的に、活気のある作業室の存在も広く府民のみなさんに知っていただきたいと願います。



○ 冷泉 委員

古い建物の良さを残しつつ、新しく生まれ変わった府立図書館を見学させていただきました。随所に残る元の建物の美しいデザインと、現代のデザインとの融合がとてもよいです。

増え続ける出版物の収蔵はどこでも大きな問題となっています。その中で自動化書庫は新しい収蔵を考えさせるものでした。

府内の中核的図書館として、京都市を含める各市町村立図書館との連携の中で、本の共有がなされていることは、行政の無駄をなくす上でも大変良いことであると思います。京都に多くある大学図書館との連携も進めば、素晴らしいでしょう。

静かに読書している人の姿は、懐かしく、また美しいものでした。



○ 平塚 委員

急速に情報通信技術が進展している現代において、京都府内の全ての市町村立図書館を結ぶネットワークシステムで、市町村立図書館の業務運営を支援していることに、とても感銘を受けました。

また、来館者も多く、京都府内図書館サービスの中核的図書館として、京都府立総合資料館、京都市立図書館等との連携により、今後も京都府民、市民のサービス充実を継続していただきたいと思います。

○ 7月31日(木)

教育機関視察(京都市立図書館)



○ 上原 委員

視察させていただき、府立図書館のイメージが広がりました。蔵書を貸し出すことは当然であります。府立図書館の大きな役割の一つには市町村図書館への支援があります。府内の図書館では蔵書に限りがあり、各図書館や府立高校から府立図書館の蔵書を取り寄せることができます。府立図書館が府内全域の府民にサービスを提供していることはあまり知られていないように思います。今後、さらに周知活動の充実が大切であると考えます。



○ 安藤 委員

府立図書館で本の出納管理を自動化した設備、「総合目録ネットワークを活用した」市町村立図書館との連携業務などを拝見いたしました。

府民の多様な図書活動に対応するため、市町村立図書館への支援をはじめ、「資料・情報の収集」や「レファレンスサービス」など、本来の図書館業務の機能にとどまらない 府内公立図書館の核となる新しい役割を担っていることが分かりました。職員による「読書へのきっかけ」の提供や、調べ物等のために図書館を活用する方法を学ぶ「図書館活用講座」や、府立図書館近郊の文化施設と連動した企画やパネル展示、京の歳時記に関連した特設コーナーの設置など、訪れた方々にもわかりやすく利用しやすい、府立図書館ならではのアイデアや工夫もたくさん盛り込まれていました。

また、学校現場でも「朝読書の浸透」、「総合的な学習の時間における児童・生徒の調べ学習」、「ブックトーク」などの取り組み、図書ボランティアによる読み聞かせや環境整備など、新しい図書活動の動きもたくさんあります。府立学校を中心に、学校図書館と連携した中高生向けの図書の長期貸し出しや、子どもたちがより本に親しみやすいよう工夫された「本のしおりコンテスト」の実施なども広く広報され、読書活動を支援する積極的な取り組みにも関心が持てました。

インターネットや電子書籍の普及によって個人が簡単に豊富な知識が得られるようになり、情報化社会に対応する公共図書館の新たな役割が求められる時代へとなってきました。

ページをめくる時の「紙の質感」「読んだページの厚みが少しずつ変わっていく読書をしているという感覚」など、人から人へと伝えられてきた紙媒体の良さと、便利で機能的な電子媒体とが共存するハイブリッド図書館を目指して、今後も本の魅力を府民のみなさんに伝えていってほしいと願っています。